

好

評

改訂新版 登校拒否を克服する道す

説明できない気持ちが ……

子供が学校に行けなくなった時、まずこの本を読んでもらいたいと思いました。子供が自分でうまく説明できない気持ちや考えがとてもわかりやすく説明されていて、その時周囲の人がどのようにサポートすれば良いか、その時々タイミングで明確に書かれています。

私自身、長女が体調不良から不登校になった時、よかれと思った言葉やサポートが娘を苦しめてしまった事があるので、もっと早くこの本に出会っていたらと思いました。

登校拒否は、みんなが乗っている普通電車を降り、出口の見えないトンネルを歩く様なものだと思います。そのトンネルを親子一緒に同じ方向を向いて歩いて行けるように、周りの方々にサポートしてもらいながら、この本と共に、親子共に成長していきたいと思っています。

K Sさん (保護者)

次々と感想が
寄せられています

心が落ち着き笑顔で
子どもや保護者さんに向き合える

昨年度、勤務する小学校に通級指導教室が設置されました。そこには学校に行きづらいうちの子や、登校しても教室がつかない子ども達も通って来ます。どの子どもも、時間をかけて丁寧に分の行く道を確かめながら歩んでいます。これまで自分が渦中にいるとわかりませんでした。通級指導教室から学校や社会を見ると、なんとめまぐるしく賑やかで慌ただしいことでしょうか。よほどのエネルギーがないと渡り切っていけない気がします。「このままでもいいのか」との外から圧力に焦ってしまふこともあります。

そんな時『登校拒否を克服する道すじ』に立ち戻ると、心が落ち着き、笑顔で子どもや保護者さんに向き合うことができます。

子どもの力を信頼し、エネルギーが満ちるのを待つなかで、子ども達はたくさんのうれしい前向きな姿を見せてくれました。今も、毎日が小さい一歩の積み重ねです。

「安心と信頼」が保障される学校づくりのため、未来に向かう子どもたちを守り育てるために、この本を皆さんに読んでもらいたいと切に願います。

豊中市立大池小学校教諭 藤木 桂子